

地震から身を守るには

家族防災会議を開きましょう



一人ひとりの役割を決めておきましょう。



避難場所や避難経路を確認しておきましょう。



災害発生時の連絡方法を決めておきましょう。



屋外、屋内の危険箇所をチェックし、家具等は固定しておきましょう。



非常持出品の準備と確認をしておきましょう。



防災用具や応急手当の方法を確認しておきましょう。

地震が起きた時の心得

1 まずは身の安全を確保

立ってられないような大きな揺れを感じたら、まず丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠します。座布団などが身近にあれば、頭を保護しましょう。

2 すばやく火の始末

すばやくガス器具やストーブなどの火を消しましょう。ガスは元栓を締め、電気器具はプラグを抜きましょう。

3 脱出口の確保

揺れで、ドア枠などが変形し、開かなくなってしまうことがあります。玄関や部屋のドア、窓などを開け、いつでも逃げられるようにしておきましょう。

4 外へ逃げるときはあわてずに

大地震でも大きな揺れは1分程度です。外ではガラスや瓦、看板などが落ちてくることもあるのであわてず状況を判断しましょう。(寝室にはスリッパなどを用意しておきましょう。)

5 正しい情報の入手

デマやうわさに惑わされることなく、ラジオやテレビ報道などで正しい情報を入手しましょう。また市の防災無線やFMおだわら(78.7MHz)等の災害情報に注意を払ってください。

6 冷静に避難

揺れが治っても、延焼や建物倒壊の危険性を感じた時には、冷静に判断して避難しましょう。車は使わず徒歩で避難するようにしましょう。

東海地震の防災対策

東海地震とは？

東海地震は、前兆（地震前の異常な現象）が検知できる可能性があると考えられている、東海沖を震源とする地震です。東海地方では常に地震のデータを観測しており、気象庁ではそこから得られた情報から危険度を決め、「東海地震に関する情報」を公表します。

なお、**東海地震は、前兆現象が捉えられないまま突発的に発生する場合があります。**また、それ以外の大きな地震が起こることもあります。

東海地震に関する情報

東海地震は大規模地震対策特別措置法に基づき、予知のための観測が24時間体制で実施されています。観測データに明らかな変化が表れた場合には、気象庁から危険度に合わせて3段階の「東海地震に関する情報」が発表されます。すべての情報は、市の広報（防災無線）やテレビ・ラジオを通じて住民の方に伝えられます。